「地域の伝統文化を継承していく研究活動」

学校名	岩手県立平舘高等学校

１はじめに

本校は、平成22年度から、地域に伝承されている「紫根染」の実習を行っている。これは、校歌に歌われ校章にも図案化されている「ムラサキ」の根を使った染色である。１年次に生徒自らが「ムラサキ」の苗を植栽して２年間育て、収穫した根から色素を抽出しポケットチーフを染めてコサージュ型に折り卒業生へ贈呈したり、絹のハンカチーフを染めて被災地に贈っている。その技術継承に取り組む活動は地域における反響が大きく今後も継続的な活動が期待されている。

平成26年度までは地域で活躍されている方を講師に招き、生徒に対し講話や技術指導を行っていただき継承をしてきた経緯があるが、その後講師の方が体調を崩され本校に出向くことや技術指導を行うことが困難な状況になった。

平成27年度からは、本校生徒が中心になり本格的に研究や実践を重ね、染色技術の解明と紫根染の普及活動に取り組んでいる。

２　取組の内容

（１）紫根染に関する研究活動

実験により、綿よりも絹が染まりやすいことや、酸性は赤みが強く、アルカリ性では青みの強い紫色に染まること、浴比は、小さいほど濃く染まることを確かめた。また、染液を作る際の水のｐＨは、水道水よりも酸性に近いｐＨ５．５くらいがきれいに染まることがわかり、地域の方々を対象にした体験教室の際には活かすことができた。

（２）地域の方々へ体験教室の実践活動

近隣小学校における出前授業と、本校調理室において地域の方に向けた体験教室を実施した。絞り模様を入れられるよう工夫を凝らし、ビー玉と輪ゴムを使った「根巻き絞り」や割りばしと輪ゴムで「板締め絞り」、結束バンドの「折り絞り」など、簡単に模様を入れて楽しめるようにした。

小学校の出前授業では、小学生グループに本校生徒がリーダーとなり、技術指導を行った。好みの絞り模様を施し、媒染したあと、紫根の染液に入れて３０分かき混ぜ染色をした。絞っている輪ゴムや結束バンドを外すと模様と色を見て驚きと感動が広がり、「白い花が咲くのに紫色に染まるのが、不思議だった」などの感想を聞き、小学生が紫根染めに興味を示したという実感をもつことができた。２回実施した紫根染体験教室では、本校校歌を参加者全員で歌ったあと本校生徒が行っている研究の紹介を行った。そのあと、絞り模様を入れて媒染、染色を行った。事前に実験により確かめた成果があり染め上がりはとてもきれいな紫色になり、参加者の皆さんに満足してもらうことができた。

（３）小物を活用しての普及活動

昨年 10 月に希望郷いわて国体が開催された。紫根染を全国へ発信するチャンスととらえ、選手や観客の皆さんにお土産を作って渡したいと考え、ストラップの考案と製作にとりかかった。ハンカチを切ってリボン状にして使うことにして、染める回数を変えて色の濃淡を出し、絞り模様を入れ、ウッドビーズなどをつけて試作を繰り返し、オリジナルストラップを合計 300 個作り上げた。相撲会場において、各県選手団と一般のお客様にお土産として渡した。後日、大阪に住む男性からの電話や地元の卒業生からのハガキなど、うれしい反響の声が届いた。

また、今年度は地元の夏祭において、子どもたち向けにプラバン体験コーナーを設置して作ってもらい、紫根染キーホルダーにつけてプレゼントした。

さらに、紫根染ストラップの新型を考案した。紫薫枕を製作するときに残る脱脂綿を丸め、染め方の練習に使ったハンカチを切って包み、小さな巾着にして、「紫根染」というプレートを作って、鈴やレースで装飾した。出前授業や体験教室、相撲の東北大会において、お土産として配布したほか、文化祭や地域のふれあい祭では販売し、利益は卒業生へ贈るためのポケットチーフの購入にあてた。

３　成果と課題

地域の指導者がいない中で、伝統的な技術を本校生徒が継承していくことは、容易なことではない。しかし、生徒は、より鮮やかな紫色に染める研究を行いアルコール抽出した紫根液に、水をｐＨ５．５に調整してから加えると良いことが分かるなど地道な研究と、地域の方々との交流を通して、基本的な染色技術を身につけるとともに紫根染に関する知識を得ることができている。また、リーダーとなる生徒が中心になって小学校における出前授業や地域の方を対象にした紫根染紫根染体験教室を実施することにより、生徒自身も達成感を感じている。

今後も地域と学校が一体になり、技術継承に取り組む活動として「紫根染」の研究や普及に継続的に取り組んでいきたいと考えている。